磐城水產新報

毎月十、廿、卅日發行
定價 一部 十錢
一ヶ年 三圓
廣告料 十二字詰一行五十錢
發行兼編輯印刷人 伊藤隆次
福島縣小名濱町
發行所 磐城水產新報社

鄉土人生活革新は
海洋の開拓にあるのみ

青年諸君が、鄉土文化建設のため、鄉土經濟生活樹立のために奮戰力鬪した事か吾等は先輩の努力に對し先人の苦鬪に對し更により善き鄉土を建設して次代の鄉士の人々に引渡さねばならぬ責務がある。徒らに物質的壯嚴に眩惑し、享樂的生活に耽溺し舊生活態度を墨守し經濟的恐慌の墨潮が旣に脚下に迫り來るをも無關心に、自然の成行のまゝに推移せんか、鄉土人生活悲劇の暗黑舞台は即て展開されねばならぬ。

敬愛措かさる鄉土青年諸君抑々諸君は如何なる、用意と準備を以て新鄉土を再建し鄉土文化と新生活を樹立創造せんとする乎抑々又如何にして諸君は先人に報へ當代に處し又次代の鄉土人に見えんとする乎。

是れ現代鄉土青年の前に提供せられた現實生活の問題である、斯の如きは獨斷と偏見に依りて解決する問題でない、一時的運動や感情的昂奮を以て解決し得る問題でもないよろしく科學と道理に訴へ、理性と意志に聽從し常識と先見に即し深觀と批判に立脚し始めて解決すべぎ現實の問題である『故鄉は一種の靈感』なるその鄉土。是れを思慕憧憬し、哀敬擁護し改造發展せしむる事は鄉土人の聖務にして、當に鄉土青年が玆に總立ちとなり一齊に蹶起して鄉土人生活樹立の生活道を創造せねばならぬ。

社頭の杉も城頭の鐘も海音潮聲も一種の神秘なる禮感を以つて鄉土青年の蹶起を促してやまぬ、而も脚下には生活悲劇の怨濤が逆捲いてやまぬ鄉土人生活の非常展開の血路果して那邊に發見せんとする乎。 續く

（白潮生）

フースビー
水產と人物
小野德藏君

雄辯は銀……無言は金なりとせば我敬愛する小野君は無論金なるべし

君一旦は外せんか必らず實行を伴ふ一般より崇敬の的となる豈遇然ならんや旣に縣水產議員、町會議員小名濱鮮魚商組合長として町治の樞軸にあり、我町政水產界の恩人である。君は『大膽にして小心なれ』の實行家として小名濱鮮魚商として覇を振り掟たる一般を範を垂る年齡惑はざるの活動盛りも隆々たるの体軀と內部に潛む正義觀念の君……今後進出すべき指針は何處……何れにせよ君たる物遠慮や深甚して居る時でない、町政にも水產界にも縱橫の手腕と力量を措ます奮鬪あられ、正に延びんとする第二の橫濱として期待さる本町の爲め、最善の努力あらんことを切望して筆を擱す。

多賀郡支局開設に際して

支局長 神永恒重

磐城水產新報の發展に當り今回多賀郡にその支局を開設致しました、由來磐城と多賀とは勿來の關を境界とはして居りますもの丶小名濱町水產試驗場を中心とした當水產新報は最も密接なる關係を有して居ることを痛感するものであります。その意味に於て今回多賀郡に支局を開設し、益々斯界の向上發展に微力乍ら盡力すものであります。開設の意を了し最も理解ある熱切なる讚援に預りたく一言以て御挨拶申上げます

銘酒 清水正宗 清世界 釀造元
清水屋
小名濱（電話六番）

東洋捕鯨會社
小名濱事業場
小名濱町
場長 大野英之助

祝發刊

小名濱漁業組合
組合長 立花勇七
事務長 渡邊勘哉

和洋銅鐵金物問屋
釜屋(久)商店
電話九番一三九番

診療科目（內科、小兒科、婦人科 外科、耳鼻咽喉科、皮膚病、花柳病科、レントゲン科）
高久病院
磐城平町 電話五一三番
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟 醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑士 佐竹菊雄

營業品目
發動機油類一式。綿糸漁網
麻網麻及。ベンキエナメル
ワニス滑車。發動器附屬品
パツキン類。其他船具一式
小名濱水產
株式會社
支配人 平野直保

東京池貝鐵工所
東京日本鐵工所 特約代理店
福島縣石城郡江名町
中之作鐵工場
主 吉田正雄

◁外科一般
◁X光線科
上田外科醫院
平町南町
電一二九番

外科
花柳病
專門
木村外科醫院
平町立町
電三〇九番